

410) 平凡

おまえぐらいの美人だったら	いろんな話しあったろうけど
どうして俺にほれたんだろう	いまだに俺は信じられない
男は一人生きてゆくもの	死んでくものと思ってたけど
女とふたり苦勞をともに	生きてゆくのも悪くはないさ
嵐のような俺の人生	最近少しはまともになった
酒もタバコも麻雀もやめ	付き合いずらくなったというが
女房の笑顔早く見たくて	仕事終われば一目散さ
カラオケなんか用はないから	6時以降はお断りだよ
どこから見てもおれには過ぎた	美人の女房嫁にもらっちゃ
少し覚悟も違ってくると	まわりのものは冷やかしたけど
今じゃ女の扱い方も	ちょっぴり板に着いたというか
俺の右腕枕がわりに	おまえの寝顔ほほえんでるぜ
惚れた女と地味に生きてく	こんな人生悪くはないさ
やがて子供が生まれてくれば	俺も普通の親父になって
それが人生倖せなのさ	ごく平凡に年を重ねて
ごく平凡に年を取ってく	それでいいのさ俺の人生
ささやかに生きさやかに死に	たった一人の女を愛し
それでいいのさ俺の人生	それでいいのさ俺の人生